第1課　歴史を理解するーゼルバベルとエズラ

【暗唱聖句】

「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建てることをわたしに命じられた」エズラ記1章 2節

【日曜日・捕囚の民の第一次帰還】

**「この地は全く廃虚となり、人の驚くところとなる。これらの民はバビロンの王に七十年の間仕える。七十年が終わると、わたしは、バビロンの王とその民、またカルデア人の地をその罪のゆえに罰する、と主は言われる。そして、そこをとこしえに荒れ地とする」エレミヤ25：11，12**

バビロンによって国が荒廃し、民が捕囚となることは預言者エレミヤを通して、初めから神様に告げられており、しかも捕囚の期間についても預言されていました。それは70年です。ダニエルはこの預言を元に、バビロンに捕囚となったBC605年から数えると間もなく70年が経過することを悟ります。

**「さて、わたしダニエルは文書を読んでいて、エルサレムの荒廃の時が終わるまでには、主が預言者エレミヤに告げられたように七十年という年数のあることを悟った」ダニエル9：1，2**

バビロンがペルシャ帝国によって滅ぼされたのはBC539年であり、その後すぐに神様によって心が動かされたキュロス王が、BC538頃に捕囚の民に第一次帰還命令を出します。約42,000人が帰還し、ゼルバベルの指導のもと神殿再建に着手します。確かに、70年の預言通りバビロンは滅びましたが、民全体が捕囚から解放されたわけではなく、自治権もありませんでした。そのためにダニエルは悩み悲しみながら、神様に祈ります。この祈りはイスラエルの三大懺悔祈祷と呼ばれ、イエスラエルの罪を自分の罪のように告白し、民全体をとりなしました。このダニエルの祈りに対して、神様はこれから起こる詳細な計画を伝えます。その中で、主ご自身が地上にやって来られることを告げたのでした。

【月曜日・王たちと出来事の概観】

エズラ記やネヘミヤ記に登場するペルシヤの王は、初代キュロス王を始め、70週の預言に関わるダレイオス1世など全部で5人出てきますが、必ずしも年代順に登場するわけではありません。たとえば、エズラ記4章には、サマリア人にある神殿再建への反対が起こったことが出てきますが、幅広い年代の出来事を以下のようにまとめて記述しています。

1. キュロスからダレイオス王の時代の出来事（4:1-6、24節、5-6章）
2. クセルクセス王の時代の出来事（4:6）
3. アルタクセルクセス王の時代の出来事（4:7-23、7章以降）

＊5から6章にかけての内容は、②と③の2人の時代の異なる王に神殿再建に関する書簡が送られる前の出来事ですので、時系列に書かれていないことに注意しなければなりません。

【火曜日・捕囚の民の第二次帰還】

第二次帰還命令は、BC457年、アルタクセルクセス1世の時代に出されました。このときエズラとその家族も帰還することになります。またユダヤ人たちに行政権を認め、これにより完全な再建が可能となりました。ダニエル書の70週の預言の起算点もこの時になります。

**「エズラは、イスラエルの神なる主が授けられたモーセの律法に詳しい書記官であり、その神なる主の御手の加護を受けて、求めるものをすべて王から与えられていた…エズラは主の律法を研究して実行し、イスラエルに掟と法を教えることに専念した」エズラ7：6～10**

エズラは祭司の系統を引く書記官であり、神様から守られ、自ら聖書を研究して実行するだけでなく、イスラエルにも掟と法を教えました。

＊書記官とは、王室の高級官僚の一人であり、それゆえエズラは王からリーダーとしてエルサレム再建に選ばれたと考えることができますが、単純に学者（口語訳）とも訳せる言葉です。

【水曜日・アルタクセルクセスの命令】

アルタクセルクセスは、まず「わが国にいるイスラエルの人々、祭司、レビ人でエルサレムに行くことを望む者はだれでも、あなたと共に行ってよい」（エズラ7：13）と言って始まります。ただ捕囚から150年近くが経過し、ユダヤ人たちはみなペルシャで生まれ育っていました。エルサレムでの過酷な生活を考えて、多くのユダヤ人はそのままペルシャに残ったようです。ただ、先祖のいた祖国で新しい生活を始める機会を望んでいた人たちもいて、希望を胸に旅立ったのでした。

次に「エルサレムに住まいを定められたイスラエルの神に、わたしと顧問官が寄進する金銀を持って行くこと」（エズラ7：15）と、財政的なサポートを約束しています。さらに「エズラよ、ゆだねられた神の知恵によってあなたは治める者と裁く者を任命して、ユーフラテス西方のすべての民、あなたの神の律法を知るすべての者を治めさせ、律法を知らない者にはあなたたちは教えを授けよ」（エズラ記7章 25節）と、エルサレム再建がスムーズにいくように法の整備も命じます。このような命令をする背景には、アルタクセルクセスがエズラの信じる神様に敬意を持っていたことを現わしています。

【木曜日・教育の重要性】

**「エズラは、イスラエルの神なる主が授けられたモーセの律法に詳しい書記官であり、その神なる主の御手の加護を受けて、求めるものをすべて王から与えられていた」エズラ記7章 6節**

**「エズラは主の律法を研究して実行し、イスラエルに掟と法を教えることに専念した」エズラ7：10**

エズラは律法を研究し、研究するだけでなく実行しました。そして、掟と法を教えることに専念しました。この箇所からだけでも、エズラがどのような人物であったのかを垣間見ることができます。

「彼は自分の霊的状態に満足していなかった。彼は神と完全に一致することを熱望したのである。彼は神の御心を実行に移すことを熱望したのである・・・そのために彼は預言者と王の書物の中に記された神の民の歴史を熱心に研究するようになった」国と指導者下P211

エズラが熱心に聖書を学んだのは、神様と完全に一致し、神様の御心を行いたいと熱望したからだという言葉は注目に価するでしょう。